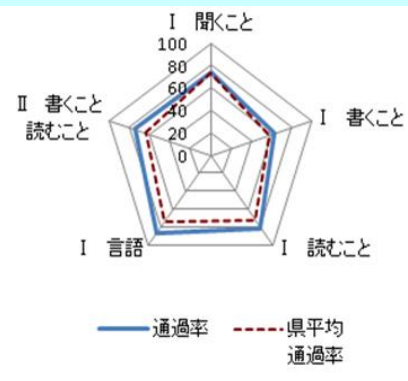
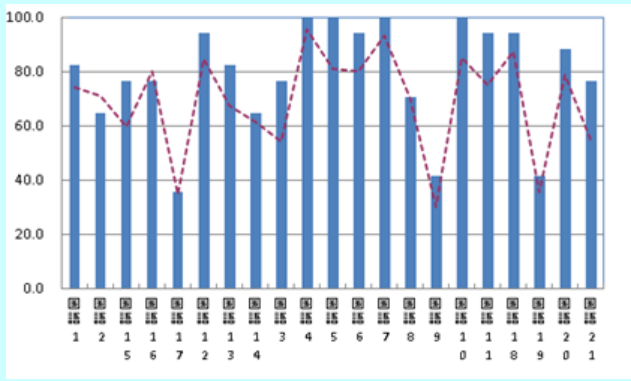


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率（本校 78.7%, 県 69.2%）

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向について
国語の結果において、タイプⅠは79.6%、タイプⅡは75.0%の通過率になっている。
この結果から、基礎的・基本的な学習内容の定着は概ね定着していると思われるが、知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力が不十分であると考えられる。
- 昨年度の課題への取組の成果
昨年度は、書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にすることができることに課題が見られた（昨年度 16.0%）。そこで、文の成分の復習と文章読解においても主語・述語を意識して学習した結果、通過率35.3%となった。しかし、目的に応じて資料を読み、要旨を把握する（昨年度 52.0%）については通過率41.2%となり、引き続きの課題であると考える。

重点課題

- 【課題1】四3（本校 35.3%, 県 34.6%）
叙述の仕方に関わる問題に課題がある。一文を二文にする際、条件1の「意味を変えずに二つの文にすること。」はできているが、条件2の「『送るべきである』に対する主語を補うこと。」ができていない生徒が多い。主語の概念が曖昧であるため主語がないということに気付いていない生徒と、述語に対してずれた主語（「私たちは」ではなく、「みなさんも」）を書いている生徒がいる。その結果、書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にすることができていない。
- 【課題2】五2（本校 41.2%, 県 35.4%）
目的に応じて資料を読み、要旨を把握することができていない。正答するための三つの条件のうち、②の「エネルギー源として永続的に利用できる」という部分が資料2の中から読み取れていない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

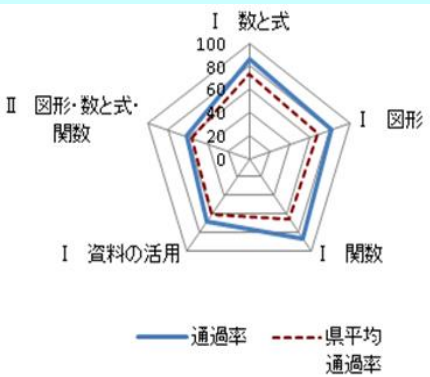
- 【課題1】
文法について、文の成分を復習させ、小テスト等で繰り返し練習問題に取り組ませる。「書くこと」において、自分の意見や考えを構成・論理の展開・表現に気を付けて書くように指導する。また、説明的文章の読解においても主語・述語の関係を常に意識させ、確認をさせていく。
- 【課題2】
説明的文章の読解をする際、文章の構成・展開を捉えることと内容段落の主題文を読み取る学習を行う。また、文章全体の骨子を捉えて書く指導を行う。さらに、文学的文章の学習においても物語を大きく捉えたり、自分の意見を要約したりする学習を引き続き取り入れる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年 中間試験		2年 期末試験	2年 市学力到達度検査		1・2年 学年末試験
目標値		50%		50%	55%		70%
実施後数値							

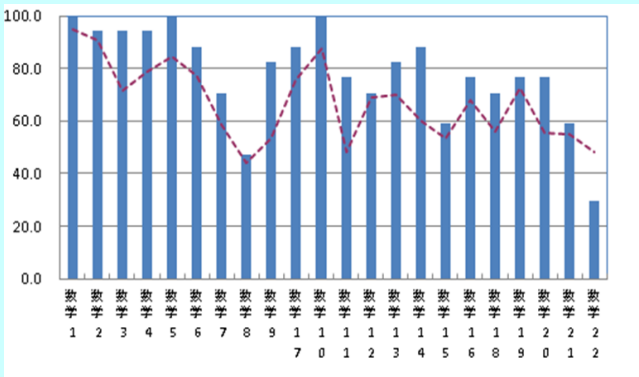
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年 中間試験		1年 期末試験	1・2年 市学力到達度検査		1・2年 学年末試験
目標値		50%		55%	60%		70%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率（本校 78.3%, 県 66.9%）

領域別平均通過率



設問の平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について
数学の結果において、タイプⅠでは 83.0%，タイプⅡでは 62.4%の通過率となっている。基本的な計算技能や知識はおおむね身に付いているが，発展的な数学的な見方や考え方については課題があると考えられる。また，領域別では，「資料の活用」の通過率が 67.6%であり，この領域については知識理解にも課題が見られる。

○昨年度の課題への取組の成果
昨年度は，比較量が基準量×割合で求められることを理解し，数量の関係を文字を用いた式で表す問題に課題があった（昨年度 36.0%）。そこで，授業で割合に関する問題を多く扱ったり，数量の関係を文字を用いた式で表したり，反対に式が表す数量を読み取る指導を行った。その結果，今年度は同様の問題で通過率が 70.6%となった。

重点課題

- 【課題 1】 3（本校 47.1%，県 44.2%）
自然数の意味を理解していない。自然数＝正の整数という理解が不十分であり，選択肢の中から自然数を選ぶことができていない。
- 【課題 2】 1 2（2）（本校 29.4%，県 48.4%）
与えられた表や式を用いて，問題を解決する方法を数学的に説明することに課題がある。比例の表や式を用いて数値を求めることができていない。また，その方法を数学用語を用いて説明することが不十分である。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

- 【課題 1】
授業の中で数学用語を使わせる課題を多く設定したりすることで，数学用語を使うことを意識させる。その際に意味も確認することで定着を図る。また，小テストで，計算技能だけでなく，数学用語への知識・理解を問う問題も出題し，取り組ませる。
- 【課題 2】
関数において，既習事項カードを用いて，表・式・グラフの特徴を繰り返し確認する。そしてそれらを用いて課題を解決する課題を設定し，取り組ませる。また，課題を解決する方法は，数学用語を用いて論理的に説明する活動を仕組み，生徒同士で互いに説明しあうことを通して，より分かりやすく説明することができるようにする。

【課題 1】	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
学年・方法		1・2 年 中間試験		1・2 年 期末試験			1・2 年 学年末試験
目標値		60%		70%			80%
実施後数値							

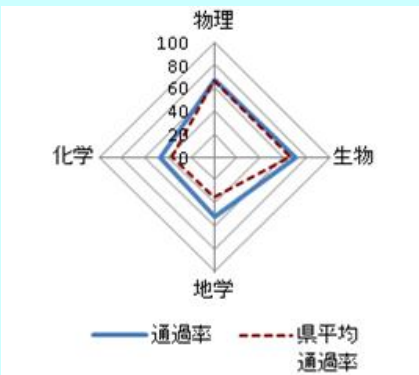
【課題 2】	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
学年・方法		2 年 中間試験		1・2 年 期末試験			1・2 年 学年末試験
目標値		40%		50%			60%
実施後数値							

指導方法等の改善計画について〔理科〕

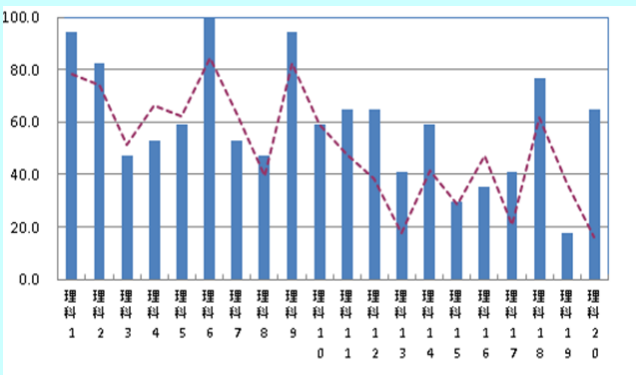
三次市立甲奴中学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 59.1%, 県 50.8%)

領域別平均通過率



設問別の平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について
理科の結果において、タイプⅠは 60.8%，タイプⅡは 56.6%の通過率になっている。物理領域の「自然事象についての知識・理解」「観察・実験の技能」「科学的な思考・表現」，化学領域の「自然事象についての知識・理解」に課題がある。

○昨年度の課題への取組の成果
昨年度は，物理分野の質量の意味とその測定方法を理解する問題に課題が見られた（昨年度 24.0%）。そこで，授業において具体的な道具を使い，意味を繰り返しながら定着を図った。

今年度は，昨年度と同趣旨の問題がなかったが，物理分野の「力」に関する単元の課題を継続する。

また，実験結果を分析・解釈し，結論を導き出すことに課題が見られた。（昨年度 24.0%），そこで観察・実験の結果を分析し考察する過程を通して，課題解決の方法を身に付けるようにした。

今年度の物理・化学分野の「科学的な思考・表現」に関する問いの平均が 70.6%であった。

重点課題

- 【課題 1】 8 (1) (本校 17.61%，県 36.7%)
化学分野の物質の状態変化において，固体から液体になる融点という語句の理解が不十分である。
- 【課題 2】 2 (3) (本校 52.9%，県 66.4%)
確かめたい課題に対し，適切に条件制御を行い実験する科学的な思考・表現が不十分である。
- 3 (2) (本校 52.9%，県 62.9%)
実験の予想が正しいことを確かめるために，どの実験結果を比較すればよいか思考することが不十分である。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

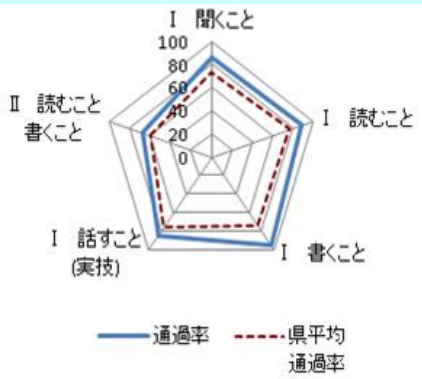
- 【課題 1】
基本的な用語を理解させ，それらを活用できるようにするために，学習内容の振り返りを繰り返す。観察・実験において，既習事項の専門的な用語を使って考察を書かせることを継続する。
- 【課題 2】
観察・実験を行い，結果を分析し考察する過程を通して，課題の調べ方の基礎を身に付けさせる。また，実験器具の基本的な操作や記録の仕方，グラフ処理等の技術を習得させる。
- さらに，既習事項を活用し他者と協働しながら，主体的に課題に取り組む課題発見・解決学習を行う。

【課題 1】	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
学年・方法				1 年 期末試験	1・2 年 市学力到達度検査		1・2 年 学年末試験
目標値				60%	50%		70%
実施後数値							

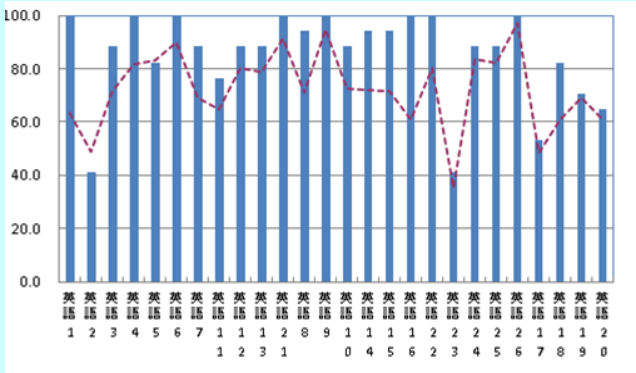
【課題 2】	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
学年・方法		2 年 中間試験		1・2 年 期末試験	1・2 年 市学力到達度検査		1・2 年 学年末試験
目標値		60%		60%	50%		60%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率（本校 85.1%, 県 72.4%）

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向について
英語の結果において、タイプⅠは88.2%、タイプⅡは67.6%の通過率になっている。
この結果から、基礎的・基本的な学習内容については概ね定着していると思われるが、学習した知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力が不十分であると考えられる。
- 昨年度の課題への取組の成果
進行形を含む問いに対して、適切に応答すること（昨年度 16.0%）、情報を基に、それに関連する質問を考え、英文を書くこと（昨年度 28.0%）に課題が見られた。そこで、帯活動で教科書の Basic Dialog などを活用し、進行形や疑問詞を含む基本文のインプットを行った。今年度は同設問で 41.2%、82.4%の通過率であった。適切な応答については引き続き課題が見られた。

重点課題

- 【課題 1】 1-2 （本校 41.2%, 県 48.7%）
英語での問いかけに対して、適切に応答することに課題がある。
正答 Sure. 誤答例 Yes, I can. / Thank you.
質問の Can I use it?の意味を理解できていない。
- 【課題 2】 1 2 （本校 64.7%, 県 61.1%）
まとまりのある一貫した英語の文章を書くことに課題がある。
文の数は、平均 4.2 文書くことができていますが、つながりをあまり考えずに書いているものも見られた。また単語のつづりが正しく書けていないこと、三単現の s、複数形の s、代名詞の用法の理解に課題が見られた。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

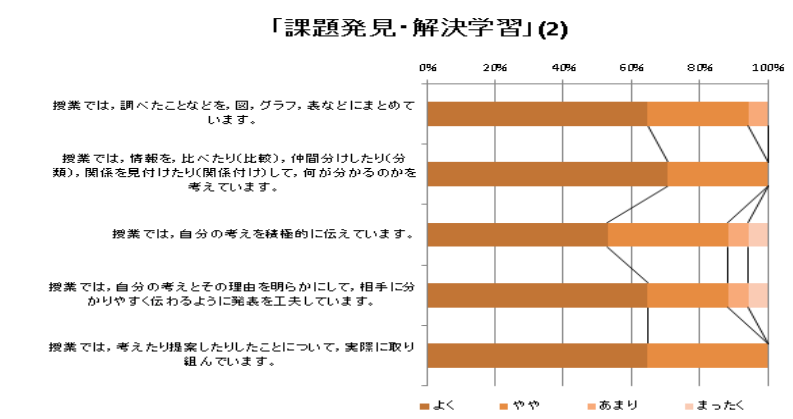
- 【課題 1】
日常会話の中で使用される許可を求めたり、依頼をしたりする表現とその応答を再確認し、授業での Classroom English の中で使用させながら定着を図る。また教科書の Basic Dialog を活用し、Can I ...?や Will you?などの表現とその応答に慣れさせる。定期テスト等で、定着を確認させ、指導者は課題を把握し、課題克服を意識して次の指導を行う。
- 【課題 2】
授業導入時の帯活動において、1 年生と 2 年生の教科書の Basic Dialog を活用し、重要表現の定着を図る。また単語のつづりが正しく書けていないので、家庭学習で書く練習をさせ、授業では単語テストなどを繰り返す。自己紹介や人物紹介などの自己表現作文を文と文のつながりを意識して、書くことに定期的に取り組ませる。

【課題 1】	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
学年・方法		2 年 中間試験		2 年 期末試験		2 年 インタビューテスト	1・2 年 学年末試験
目標値		50%		55%		60%	70%
実施後数値							

【課題 2】	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
学年・方法		2 年 中間試験		2 年 期末試験			1・2 年 学年末試験
目標値		60%		70%			80%
実施後数値							

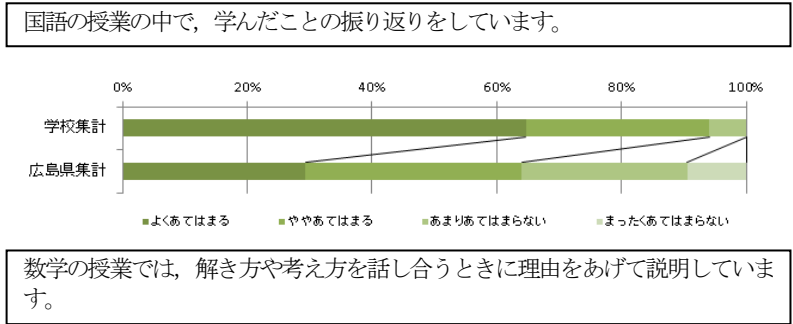
質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

(1) 生活・学習



生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
授業では、自分の考えを積極的に伝えています。（52.9%[よくあてはまる]）	・小集団を活用し、自分の考えを伝える活動を多く取り入れる。 ・意図的指名を行い、生徒が自身の意見に自信を持てるような授業を展開する。 ・全教科を通して、共感的な人間関係づくりに取り組む。	全	60%	授業評価アンケート	2月		

(2) 教科



	生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	国語の授業中で、学んだことの振り返りをしています。（64.7%[よくあてはまる]）	授業において、学習内容の確認と学んだこと、わかったこと、これからつきたい力等について振り返りをさせる。	全	80%	授業評価アンケート	2月		
数学	数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由を挙げて説明しています。（58.8%[よくあてはまる]）	課題解決方法などを考える際に、これまでの既習事項を根拠として説明させる。	全	80%	授業評価アンケート	2月		
理科	理科の授業では、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。（52.9%[よくあてはまる]）	学習内容と生活場面の関連した事象や事柄を想起させる導入の工夫や、課題発見・解決学習的な単元開発を進める。	全	70%	授業評価アンケート	2月		
英語	英語の授業では、学んだことの振り返りをしています。（58.8%[よくあてはまる]）	授業において、学習内容の確認と学んだこと・表現、わかったこと、これからつきたい力等について振り返りをさせる。	全	80%	授業評価アンケート	2月		